

## 「話し合いの場」

第1部  
報告  
情報共有

## ①8/6までの目標についての報告と地域課題の芽

- ・6.7月にハートボックスの駄菓子屋を手伝った。駄菓子屋には高齢者もたくさん来ており、その場で健康診断を行うなど地域共生につながる取り組みができたら良いと感じた。
- ・サマーズクールに包括として参加、子どものうちから高齢者のことや認知症の理解をしてもらうことが大切と感じた。
- ・セブンイレブンが無人化というニュースを見た。先月、コンビニを子どもの居場所、地域のコミュニティと話していたのでショック。コミュニティの大切さと利益や効率との両立の難しさ、こういう顔を合わせる場の大切さを痛感した。
- ・駄菓子屋に参加。多世代交流の場になると良い。商店街に子どもの遊ぶ、居場所にしたい。
- ・高齢者疑似体験などを児童館とやらせてもらっているが、学校のハードルが高い。なかなか理解してもらえない。
- ・ぷらっと食堂に参加。地域の一人の方が何度も訪れるなど居場所になっていた。障がい者の方の土日の居場所になると良い。
- ・リーダー講習会で救命講習実施。子ども自身にもそういう経験をさせることが大切だと感じた。
- ・ぷらっと食堂実施。地域の方と知り合いになれた。つながれたことがとても大きかった。
- ・六郷小学校の先生が見学に来た(ポジティブ)。サポートルームの子の放課後に課題があると話された。プラットフォームでも学校とつながれたら。
- ・子家センでは、できることは限られてしまうが、地域とつながりたいと思っている。六郷の資源や強みを知って相談に対応したい。
- ・家庭教育研究所の講演に参加。有意義だった。プラットフォームで話しのあった。おそば家の空き店舗についてどうなったか？
- ・駄菓子屋実施、来店121名。交流スペース21名。保育士の相談会なども検討中。駄菓子の売れ残りの活用など運営の工夫と目的をもう一度確認したい。
- ・児童館では地域のことに参加できない部分もあるが、チラシ等のアピールはできる。地域を知ることができるので大切だと思っている。

<p><b>主な参加者種別</b></p>	<p>自治会・町会の方、民生委員児童委員、青少年対策地区委員会、区民活動団体、NPO法人、社会福祉法人、民間企業、児童館、子ども家庭支援センター、地域包括支援センターなど</p>
<p><b>2部</b></p> <p><b>話し合いの場</b></p>	<p>「多世代交流」について【ぶらっと食堂】の活動実践を踏まえてグループで話し合いました。</p> <p>【ぶらっと食堂】さんの話では、実際に2回やってみてまだまだ集客が安定しないことや、ポジティブとしてではなく地域でやっているということが伝わっていない。少しずつではあるが地域の方とのつながりが生まれているという話がありました。</p> <p>①SOSのキャッチの方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SOSを出している人はいてもつなげなければSOSとは認識されない。</li> <li>・受け取る側がなんとなく気付いていても発信していない、できない。</li> <li>・電子媒体やインターネットなどでの関わりが増えている。駄菓子屋のような発信できる場、楽しい場を地域に増やすことでSOSが発見できるようになるのではないか。</li> </ul> <p>②広報について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれでも参加できることが強みなので、プラットフォームなど横のつながりを活かした広報をしていくと良いのでは。</li> <li>・バザーをやるなど、他のイベントとセットにして広報していくことで認知度があがるのではないか。</li> </ul> <p>③集客について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシがポジティブがやっているという感じが強いので「協力」に「六郷助けあいプラットフォーム」を入れてはどうか</li> <li>・場所が分かりにくいので、チラシの地図を工夫したり、外観を目立たせる工夫をしてはどうか。場所の移動も含めて検討しても良いかもしれない。</li> <li>・来場者へ、なにで知ったのかアンケートを取って広報の見直しに役立てる。</li> <li>・親世代への周知をすることで子どもは来てくれるのではないか。</li> </ul>

# 参加者の話し合いの様子

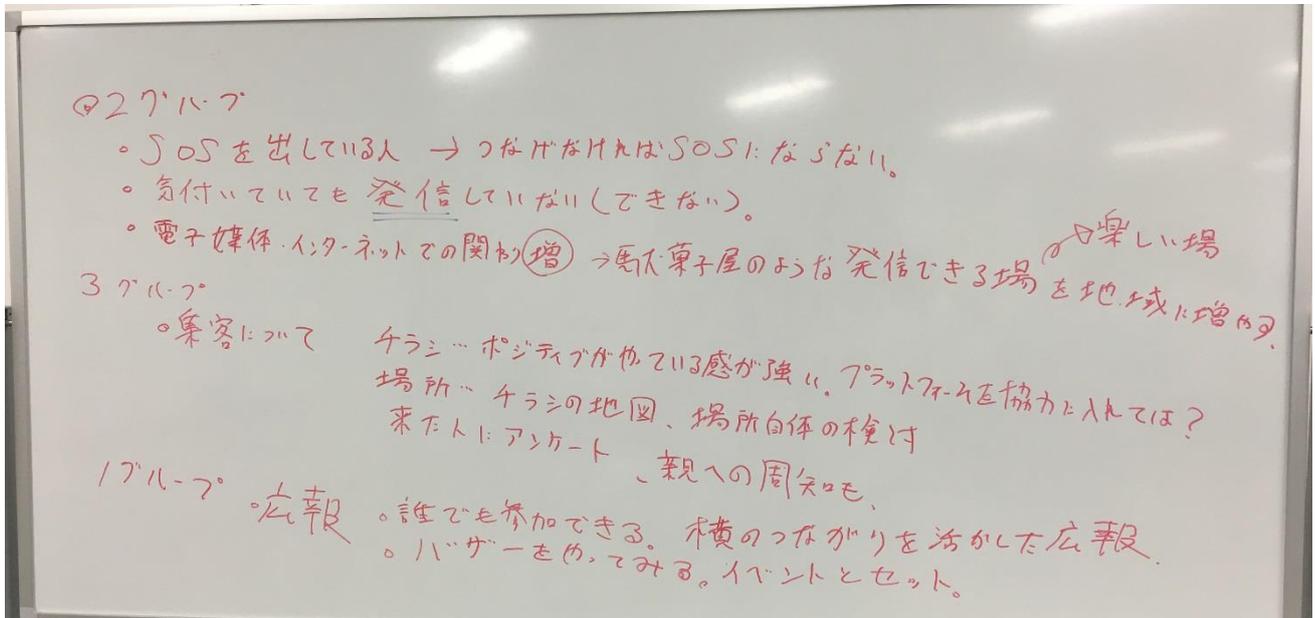


# 話し合いの結果 第1部

- 1部
  - 6.7月11-12日 馬込菓子屋 X 健康相談 (地域共生)
  - 西六サマースクール参加(包括) 児童に認サポが組み込まれる
  - セブイレブ → 無人化 (コミュニティ VS 利益・効率)
  - 馬込菓子屋参加 → 多世代交流の場、音楽コラボ
  - 商店街 子ども遊びの場作り
    - 包括 → 学校のハードルが高い(ギン体験) 高齢者の活用の場、(課題)
  - 高知児童食官と西六包括でギン体験のコラボ
  - いっしょと食堂 参加、地域の方、行ったり来たり(障がいの方の土日の居場所)
  - 馬込菓子屋参加、お年寄りもたくさん集って良かった。
  - 7/21 リーダー講習会、救命講習(子どもの対応力up)
  - 7/21 いっしょと食堂 大郷の方と知り合いになれた。つながれた(活動)

- 大郷小の先生見学(ホジテア)、サポート4の子の放課後に課題 (障がい児等)
  - △ 色々な開きの放課後がある
- 子家中心、地域とつながりない。(80代の方の相談等 障がい理解 → 日英面会)
  - 大郷の良い所、地域特性を活かす、色々な相談)
- 家庭教育研究所 講演参加... 子ども食堂(おじいちゃん)
- 子どもに、88才の方等へのセビカード(→ →)に子どもの声が見えた)
- 馬込菓子屋、立ち止めてくれた人、様々な世代の人。気軽に入りやすい雰囲気
- 馬込菓子屋 12名 21名交流スタート、コンサート帰りの子が来てくれた。運営の工夫と目的の確認
  - 保育士のアドバイザー(相談会)
  - 売れ残りの活用(夏休み)
- 体調不良(高齢者の方)、急な気候の変化、高齢者向けの課題ではない。
- 色々な所から来てくれた(いっしょと食堂) 参加できない
- 児童食官 → 馬込菓子屋のアピール可
  - △ いるがあるが地域を知らないとかできない

## 話し合いの結果 第2部



次回は、**9月3日(火)**に1か月間の活動の共有と目標設定、地域の課題の芽について掘り下げて話し合いを行います。どうぞよろしく  
お願いいたします！18時30分から20時  
30分まで  
会場は、六郷地域力推進センター4階会議室  
です。  
お待ちしております。

